

2023年1月18日

OB会員 各位

味の素(株)東海事業所OB会
会長 辻 敏昭

「アンケート」結果、及び幹事会検討結果ご報告の件

拝啓 寒中の候、皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。平素はOB会活動に格別のご厚誼を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、皆様にご協力をいただいた「OB会の今後の方向性」に関するアンケート(7/29 依頼文書)の集計結果がまとまりましたので、幹事会での検討結果とあわせ、下記の通りご報告させていただきます。 敬具

記

1. アンケート回答率: 90.9%(90名/99名)

2. アンケート集計結果の要点:

- 1)あなた自身は、今後のOB会の「担い手」になれますか？(質問 2-1)
→「担い手」を引き受けてもよい(①)、との回答者は5名。
- 2)今後のOB会をどうすれば良いと思われますか？(質問 3-1)
→「維持・存続」支持(①+②)と「解散」支持(③+④)の回答者数が、各45名ずつで同数。
- 3)OB会解散想定時の残余財産の清算方法の希望は？(質問 4-1)
→「団体への寄付」(②)を希望する回答が多く、次点は「全会員への均等分配」(①)。
しかし、「団体への寄付」に関連する(質問 4-2)では、希望する寄付先が多岐に分散。

3. 幹事会での検討結果:

- 1)現在のOB会は高齢化が一段と進行しており、今後の運営そのものを抜本的に見直すべき時期にさしかかっている。今後の新役員の確保と安定した維持運営に課題があり、ここ数年が、OB会を解散する適切な時期と判断する。

現在のOB会は 2023 年度末で解散し、仕切り直しの機会としたい。

- 2)2024 年度に「新OB会」を発足させ、新体制の下で新たな活動をスタートさせる。
2023 年度中には新たに参加を希望する会員を改めて募り、準備を進める。
(但し、新役員候補者がいない場合、もしくはOB会運営に必要な人数が集まらない場合は、「新OB会」の発足は断念する。)
- 3)解散時の剰余財産の清算方法は「全会員への均等分配」とし、2023 年度中に返金処理

を完了させる。

- 4) 第 32 回総会(2023/5)において、上記の内容を骨子とする幹事会方針(案)を決議案とする。採決にて承認されれば、翌年度の第 33 回総会(2024/5)をもって現OB会は解散するとともに、「新OB会」をスタートさせる。

4. 同封資料:

資料-1) アンケート集計結果(2022/9/17) ……4 ページ

資料-2) アンケート解析結果(2022/9/17) ……1 ページ

資料-3) アンケート結果を踏まえた幹事会での検討結果(2023/1/12) ……2 ページ

以上

アンケート集計結果

2022/9/17

★アンケート回答率：90名/99名=90.9%

(アンケートの依頼日:2022/7/29、締切日:2022/8/13)

1. 現在のOB会について

質問1-1)最近(直近5年間)のあなた自身のOB会活動への参加実績は？

①全体行事(総会、懇親会、花見)	53	名
②同好会活動(ゴルフ、グラウンドゴルフ、釣り、歩こう会)	54	名
③情報発信(近況報告、HPへの寄稿)	67	名
④情報伝達(緊急連絡網への協力)	73	名
⑤情報受信(郵送資料の確認、HPの閲覧)	68	名

質問1-2)ご自身の参加実績が少ないと思われる方にお尋ねします。
その理由は何ですか？

①健康上の理由	24	名	加重平均値	21
②遠隔地に在住のため	8	名		7
③あまり関心がない・興味がない	13	名		11
④OB会を退会したい	8	名		5
			計	43

質問1-3)OB会に期待していること(OB会に在籍している理由)は何ですか？

①全体行事(総会・懇親会・花見)	35	名	12	
②同好会活動	48	名	21	
③会員に関する情報提供・情報交換	61	名	31	
④仲間との絆を切らしたくない	39	名	15	
⑤特にない	11	名	11	
			計	90

2. 今後のOB会の「担い手」について

質問2-1)あなた自身は、今後のOB会の「担い手」になれますか？

①「担い手」がいないのであれば、引き受けてもよい	5	名
②「担い手」を引き受けるのは遠慮したい	85	名

質問2-2)上記の質問において①を選択された方にお尋ねします。
今後、あなたが担える具体的な役割は何ですか？(敬称略)

①会長	内山昇、(保黒時男 ^{2025/3以降})	1	名	0.5
②副会長	岡崎忠男	1	名	1
③会計	—	0	名	0
④幹事(あるいは事務局的作用)	井田圭三、高山壽、矢田一生	3	名	2
⑤同好会の世話役	内山昇、高山壽、矢田一生	3	名	1.5
			計	5

質問2-3)今後のOB会の「担い手」を確保するアイデアはありますか？

- ・取り組みを簡素化し、担い手の負担を軽減する(3名)
- ・「担い手」を輪番制とする(3名)
- ・役員・幹事の再任制を導入する(2名)
- ・70代前半の若手に担っていただく(2名)
- ・今後の新人会員(57年以降入社生)にお願いする(2名)
- ・東海事業所が最終職場でなかった人にも打診する(1名)
- ・外部に有料で業務委託する(1名)

3. 今後のOB会について

質問3-1)今後のOB会をどうすれば良いと思われますか？

①今後もOB会を維持・存続させ、活動を継続する	16	名	12	
②OB会活動を大幅縮小し、最小限の活動/機能のみを残す	39	名	33	
③OB会を解散するが、一部の活動/機能を残し、自由組織/有志により運営	31	名	26	
④OB会を解散し、すべての活動を停止する	23	名	19	
			計	90

(※)OB会を解散せず維持・継続する(①+②)=16+39=55名(①と②の複数回答者を差し引くと48名

OB会を解散する(③+④)=31+23=54名(③と④の複数回答者を差し引くと47名

(尚、上記の人数には、どちらも選択している回答者が5名が含まれる。今後のOB会「担い手」の有無次第であると考え、選択幅が広がったものと推定される)

質問3-2) 上記の質問において、②③を選択された方にお尋ねします。
今後も残すことを希望される活動/機能は何ですか？

- ①同好会活動
- ②「近況報告」の発行
- ③緊急連絡網(訃報等の会員消息情報)
- ④ホームページ(過去資料の閲覧、同好会等での利用)
- ⑤その他

40	名	23
28	名	11
38	名	18
15	名	6
8	名	4

計 62

質問3-3) 上記の質問において⑤を選択された方にお尋ねします。
あなたが残すことを希望される具体的な活動/機能は何ですか？

- ・ 総会あるいは懇親会(6名)
- ・ 弔慰活動(1名)
- ・ 気の合う仲間が集まって、好きなことをやる(1名)
- ・ 会社から役員を迎え、会社と活動を共有化する(1名)
- ・ 訃報・トピックス等の情報誌発行(年2回程度)(1名)

4. OB会を解散する場合について

質問4-1) 残余財産(残金:約120~150万円)の清算方法として、希望する方法は？

- ①全額を現在在籍する全会員に均等分配する
- ②全額を適当な団体等に寄付する
- ③その他

28	名	24
43	名	39
23	名	20

計 84

質問4-2) 上記の質問において②を選択された方にお尋ねします。
寄付先の具体的なアイデアがあれば教えてください

- ・ 役員に一任(10名)
- ・ 日本赤十字社、あるいはユニセフ(8名)
- ・ 公共団体(県、市)、あるいは地域(3名)
- ・ 東海事業所(3名)
- ・ 福祉事業関連(2名)
- ・ 子供食堂(2名)
- ・ 動物保護団体、あるいは障害者団体(1名)
- ・ 味の素労組(1名)
- ・ 交通遺児(特に大学生)(1名)
- ・ 毎日新聞大阪社会事業団(1名)
- ・ OB会HPの外部管理委託(1名)

質問4-3) 同上の質問において③を選択された方にお尋ねします。
剰余財産の清算方法について具体的なアイデアがあれば教えてください

- ・ 記念品(置時計、レリーフ等)あるいはギフト券を会員に配る(4名)
- ・ 解散会、パーティー、会員全員の思い出に残るイベント等を開催する(8名)
- ・ 同好会に分配する(3名)
- ・ 東海事業所に記念品(植木、絵画等)あるいは運動器具等を寄付する(2名)
- ・ 継続活動補助金、緊急連絡費、弔慰金等に活用する(1名)
- ・ OB会活動に尽力された役員(過去を含む)にお礼として分配する(1名)

質問4-4) 解散後も一部の活動・機能を残す場合、その運営方法等のアイデアがあれば
教えてください

(全般)

- ・ 有志の参加者でグループを作り、自由に活動する(2名)
- ・ 「OB会」から「OB会員連絡会」等に名称変更する(1名)
- ・ 会則、会費は設けない。参加者は改めて希望者を募る(1名)

(事務局員)

- ・ 事務局員を2名程選ぶ(2名)
- ・ 仕組みをメンテ/サポートする有志(2名以上、任期は定めない)が必要(1名)
- ・ 有志の会的存在なので、負担は少なく、順番制で担当する(1名)

(情報共有)

- ・ 自律的に維持できる仕組みを事前に準備し、その範囲で運営する(1名)
(例えば、LINE、HP等を利用して誰からでも全員に発信可能とする)
- ・ 現在のホームページを活用する(1名)

(同好会)

- ・各グループで運営方法を定め、自主運営する(5名)
- ・気の合う仲間グループを作り、自由に活動する(2名)
- ・関わりを持ちたければ、自らが先頭に立ってグループを結成すれば良い(1名)
- ・各同好会毎に現メンバーの中で世話役を選任する(1名)
- ・ゴルフ同好会の場合、優勝者・準優勝者が次回の世話役を担う(1名)

(その他)

- ・「工場見学」の企画、「会社情報」の提供(1名)

5. 自由意見欄

(活動継続)

- ・①歴史と伝統のある組織の存亡を安易に決めることは出来ない、②今後の方向性の検討の場を設置すると良い(メンバーは元役員を含める)、③OB会に期待することは会社の発展に寄与すること
- ・①解散は絶対にはないと思います、②味の素側の意向も確認願います、③解散に際し多数決はないと思います
- ・OB会が持ちこたえられるまで「ヤメナイ」
- ・①アンケート結果を基に、その内容を総会で審議する、②担い手の負担軽減で継続は可能、③会員も100名程いるので、解散は早いように思う
- ・OB会活動が大幅に縮小になっても、仲間との絆が切れない、切らさない。情報の交流・交換を活動の中心にと願っています
- ・年々高齢化する、いずれ自然消滅状態になる。それまでをどうするかを考えるしか無い
- ・①OB会会員もほとんどの方が後期高齢者となり、活動も難しくなると思われます。しかし長きにわたり仲間との絆を培ってきたものは大切にしたいと思います。②OB会を完全に解散するのではなく、一部の活動を残して頂きたい
- ・幹事の負担を最小限にして、絆の維持は継続させてほしい
- ・①東海事業所の発展の為、記念として残るもの(植木、美術作品、時計台等)を設置して欲しい、②現時点は会の大幅縮小、将来は解散の方向だと思います
- ・直近5年間で一度も総会に出席していない会員に対し、強制的に退会してもらうことにより、OB会が活性化するかもしれない?(やる気のある人だけの会になる)

(解散)

- ・OB会も高齢化が進み、体力・気力の衰えが見え始め組織の運営が大変難しくなってきたと感じます。一度思い切った見直しが必要で、今回のアンケートは良い機会だと思います
- ・会員の高齢化による移動手段の確保とコロナ感染の先行きの見通しが難しく、OB会員の集まりが更に難しくなる。これを機に解散を英断されることを望みます
- ・会員の高齢化に伴い組織の見直しをせざるを得ないと考えます。解散が妥当と考えます
- ・会員の高齢化が進み、新規入会者も望めない状況下では解散もやむを得ないと考える
- ・担い手の方の負担が、年数を増すごとに大変になるので、解散に向かった方が良いと思います
- ・現在のOB会は老人の集団です。会員がいなくなるか、会長等幹事がいなくなれば解散です。無理な延命策はトラブルの基であり、やるべきではない
- ・仲間との絆、会員に関する情報(消息)等が会員が一番の気持です。が高齢化、コロナでの同好会活動の停滞で、その気持が薄れて来ていると思います。何時かは解散の時が来ます。思い切って、今年度で解散もやむなしと思います
- ・会業務を簡素化しても、「担い手」がない場合には解散やむなし
- ・会員の年齢が高くなっているので、無理せず解散することも考えても良い
- ・OB会で退職後の皆さんの活動状況に刺激を貰い、己の活力にしてきました。総会、花見、同好会、近況報告、HPを楽しんでいました。しかし残念ながら高齢化にコロナ禍の追い打ちに合い、最近の活動状況をみると、会費だけの会員も多くなり限界に近づいているのかなと感じます。歴史や実績のあるOB会を解散と言うのも大仕事だと思います。しっかりした役員さんがいる今が解散の頃合いかと感じています
- ・自分自身は体調不良の為、活動への参加は難しい
- ・高齢になり参加出来ない為、解散を希望します
- ・若手が入らない事で仕方ないと思われる
- ・何年か後には退職者が出て来るが、後期高齢者集団の中には入会しないと考えます。縮小か解散のどちらかを選択することが必要
- ・OB会新入者が入って来ない状態ではいつれ会員はいなくなると思われる。せいぜい、後5年位ではないかと考える
- ・解散後もゴルフ、Gゴルフ、歩こう会を残してほしい。運転免許証返上せず、惚けない限り参加したい

(その他)

- ①同好会活動の継続については異論なし、②Gゴルフについては限界を感じています(世話役がいなくなります)
- ①会員の健康向上に協力(援助金)、②訃報の連絡は年1回で良い、③味の素製品購入券の配布、④同好会活動費は不要(活動は残してほしい)、⑤OB会経費は3年分残せば良い
- ①継続する同好会に、現予算の3年分を配布、②事務費、通信費、会場費など必要経費を確保する
- ①現在味の素の情報はOB会HPが唯一の手段であるが、以前のように「総会」を工場見学を兼ねて東海事業所内でやりたい、②女性OGの会員登録を考えてはどうか
- ①総会は東海事業所をお願いします、②工場見学もお願いします
- 会社状況、東海事業所の近況等の様子が知りたいです
- ①今まで会員の近況報告、緊急連絡網、HPは活用させて頂いています、②HPを活用して「会社の現況やOB会の情報を得られないかな」と思っています、③最近CTYで「東海事業所の紹介」を見て、若い時の同僚を思い出しています
- ①子供食堂等に寄付をお願いします、②東海事業所に会員の住所等を提出し、東海事業所新聞や組合新聞を自宅に送って欲しい(工場、組合員の情報が欲しい)
- 楽しく共に仕事が出来た事を何らかの形で遺す事が出来たら有難いです
- ホームページ、掲示板の利用者が少ないので、教育により利用促進を図る
- 将来OB会復活の有志が現れるかもしれないので、今までのOB会活動資料を東海事業所の組合事務所に保管を委託する(組合が拒否したらそれまで)

以上

アンケート解析結果

2022/9/17

1. 回答者の年齢別

(名)

		今後のOB会の方向性(質問3-1)				計
		存続 ①+②	←重複→ ①+②) & ③+④)	解散 ③+④	(未回答) ?	
回答者の 年齢層 (’24年4月)	70～75歳	0	0	2	0	2
	76～80歳	6	1	12	3	22
	81～85歳	35	2	28	6	71
	86～90歳	2	2	0	0	4
	計	43	5	42	9	99

2. 現在の役員・幹事・同好会世話役

(名)

		今後のOB会の方向性(質問3-1)				計
		存続 ①+②	←重複→ ①+②) & ③+④)	解散 ③+④	(未回答) ?	
現在の役員 幹事等	役員(顧問・会長・副会長・会計)	0	0	4	0	4
	幹事	2	0	0	0	2
	同好会世話役	1	2	4	0	7
	計	3	2	8	0	13

3. 次期役員候補者

(名)

		今後のOB会の方向性(質問3-1)				計
		存続 ①+②	←重複→ ①+②) & ③+④)	解散 ③+④	(未回答) ?	
次期役員 候補者 (質問2-1)	役員(会長・副会長・会計)	2	0	0	0	2
	幹事・同好会世話役	2	1	0	0	3
	計	4	1	0	0	5

4. 過去の活動実績ゼロ者

(名)

		今後のOB会の方向性(質問3-1)				計
		存続 ①+②	←重複→ ①+②) & ③+④)	解散 ③+④	(未回答) ?	
過去5年間の主要活動実績ゼロ		8	1	7	5	21

5. 退会希望者等の回答

(名)

		今後のOB会の方向性(質問3-1)				計
		存続 ①+②	←重複→ ①+②) & ③+④)	解散 ③+④	(未回答) ?	
不参加理由 (質問1-2)	関心・興味なし③	4	0	6	0	10
	重複回答③+④	0	0	3	0	3
	OB会を退会したい④	1	0	4	0	5
	計	5	0	13	0	18

「OB会の今後の方向性」に関する
アンケート結果を踏まえた幹事会での検討結果

1. 今回のアンケート結果(抜粋)

1) OB会の今後の「担い手」:

今後の「担い手」として挙手していただいた方々は以下の通り。

(敬称略) ()内の年齢は、'24年4月 時点の年齢

・会長	内山(80歳)、('25/3以降であれば可、保黒81歳)	} 計5名
・副会長	岡崎(82歳)	
・会計	—	
・幹事	井田(82歳)、高山(80歳)、矢田(76歳)	
・同好会世話役	(内山、高山、矢田)	

① 今回のアンケートでは、担い手の母集団は小さい(5名のみ)。

② 会長・副会長は比較的高齢の為、健康上のリスクは小さくない。

又、候補者は各1名のみでの為、その後の補充が困難となる可能性がある。

③ 現時点で会計候補者なし。幹事候補者3名の内1名が会計を担当する必要あり。

④ 同好会世話役は留任が1名のみ。4つの同好会を維持していくことに課題あり。

2) 「担い手」確保のアイデア:

① 活動の簡素化(総会・懇親会、花見、同好会?)による役員・幹事の人数削減。

② 担い手の「輪番制」や「再任制」の導入。

③ 若手世代(70代前半)が担う(→2024年時点では2名のみ)。

④ 今後の新入会員に託す(→2029年以降となり、且つ少数)。

3) 今後のOB会の方向性:

今回のアンケート結果は、「存続」と「解散」が同数。それぞれの支持グループの意見を見ると、価値観や考え方が大きく異なる。多様性としてそれぞれの意見を尊重し、両者それぞれをある程度満足させる解決策を模索すべきか?

・OB会の存続	45名	} 同数
・OB会の解散	45名	
・アンケート未回答	9名	

4) 今後も残す事を希望する活動:

・同好会活動	40名
・会員消息情報等	38名
・近況報告	28名
・ホームページ	15名
・総会・懇親会	6名
・弔慰	1名

5) OB会解散想定時の残余財産の処分方法:

「団体への寄付」が多いが、寄付先が分散しており定まらず。

次点の「全会員への均等分配」、あるいは「記念品」が適当と思われる。

・団体に寄付(寄付先は回答が多岐に分散)	39名
・現在在籍する全会員に均等分配	24名
・その他(記念品、解散会、今後の活動費)	20名
・未回答(解散に賛成しない会員等)	6名

6) その他(主な提言):

- ①元役員を含むメンバーでも検討する。
- ②OB会を、やる気のある人だけの会として活性化させる。
- ③無理な延命策はトラブルの基であり、やるべきではない。
- ④会員の高齢化が進んでおり、この機会に思い切って見直す。

2. 幹事会による現状認識

1) 現在のOB会は高齢化が一段と進行しており、今後の運営そのものを抜本的に見直すべき時期にさしかかっている。

- ①前回(2015年4月)の検討から7年以上経過しており、次期スタート時(2024年4月)の会員の平均年齢は約80.2歳の見込み。健康寿命を大きく上回る。
(注:日本人男性の平均寿命:81.5歳(2021年)、健康寿命:72.6歳(2021年))
- ②高齢化に伴う体力の減少や、健康上のリスクが確実に上昇しつつある。
- ③今後の新入会員は2029年度以降となり、且つ少数の見通し。又、入会希望するか不確定の要素大。

2) 健康上の理由等で活動に参加できない人が、着実に増加している。

- ①最近のOB会活動への参加実績を見ると、約4割の会員は健康上の理由等で参加できていないのが現状。今後この傾向は着実に、場合によっては急激に増加する事が予想される。
- ②OB会から脱会する人数もここ数年増加傾向にあり、今回のアンケートでも退会を希望する人数が既に8名ほど存在する。

3) 今回のアンケート結果によると、今後のOB会「担い手」の母集団は小さく、且つ高齢者層であるため、今後の安定した運営は困難が予想される。

- ①今後の役員候補者は、いずれも比較的高齢者であるため健康上のリスクは小さくない。且つ、「担い手」の母集団が小さいため、万一体調を崩された場合に補完するのが難しい。
- ②今後の活動を見直し簡素化する事で、役員・幹事の負担を減らすには限度がある。今後、「担い手」の母集団を大きくする為には、「輪番制」、「再任制」の導入も全会員が覚悟し、受け入れる必要がある。
- ③今後の同好会世話役の確保が難しくなり、役員・幹事が兼務する必要も生じる。今後も同好会を存続させる為には、それぞれの参加者に相応の負担が伴うことを覚悟していただく必要がある。

4) 今回のアンケート結果によると、OB会の「存続派」と「解散派」は人数的に拮抗している。考え方や価値観は異なるが、多様性として認め、それぞれに納得性が得られる方向性を選択したい。

3. 幹事会としての今後の方針(案)

- 1) ここ数年が、OB会を解散する適切な時期と判断する。
現在のOB会は2023年度末で解散し、仕切り直しの機会とする。
 - ①2023年度総会において、この基本方針を議案として採決する。
 - ②あわせて、2023年度の具体的な進め方(下記の2)、3))についても議案とする。
- 2) 2024年度に「新OB会」を発足させ、新体制の下で新たな活動をスタートさせる。
 - ①その為、2023年度上期に、「新OB会」役員候補者を募集する。
その役員候補者は、2024年度以降の新体制構想の骨子(案)を策定する。
(但し、候補者がいない場合、あるいはOB会運営に必要な人数が集まらない場合は、「新OB会」の発足はを断念する)
 - ②新体制構想の骨子(案)を全会員に提示した上で、「新OB会」に参加を希望する会員を募り、2023年度中には「新OB会」参加希望者／解散希望者を確定させる。
 - ③2024年度総会において、「新OB会」の体制(案)、活動内容(案)等を説明し、「新OB会」を発足させる。
- 3) 解散時の剰余財産の清算方法は「全会員への均等分配」とし、2023年度中に返金処理を完了させる。
 - ①新OB会員には分配金を各個人に返金せず、「新OB会」にそのまま財産移行する。
 - ②2024年度総会において、解散時の剰余財産の清算を含めた会計報告を行う。
 - ③2024年度総会終了時点をもって、「現OB会」は解散する。

以上